

今後5年間の阪堺線への支援策の方向性について

- ・中間検証の結果と市民意見や学識経験者からの指摘事項などを踏まえ、今後5年間の阪堺線への支援策の方向性については、基本的に今までの支援策の方向性を踏襲しつつ、より一層の支援の目的の達成に向けて、3つの観点で進めることにしました。
- <3つの観点>
 - ・「更なる安全性の向上」
 - ・「阪堺線堺市内区間の早期の自立再生」
 - ・「市全体への効果の波及」

◆更なる安全性の向上について

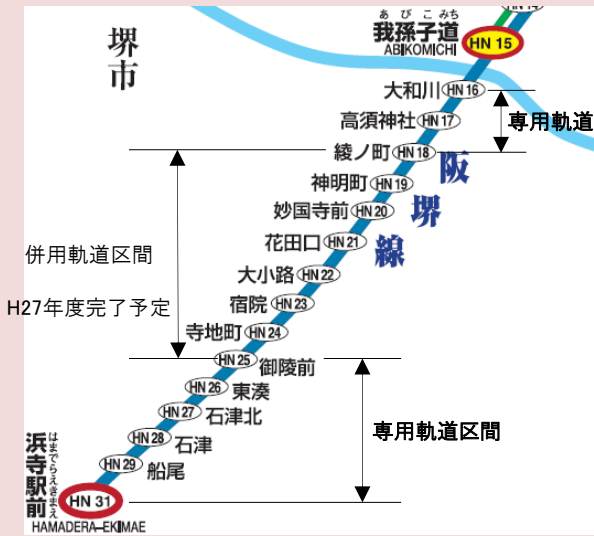
・綾ノ町停留場～御陵前停留場間の併用軌道区間は、軌道改修が概ね完了したことから、専用軌道を中心に老朽化対策を実施し、更なる安全性の向上を図る。

<軌道改修内容>

- レール・まくら木の交換
- ※併用軌道と同様、国費も活用しながら老朽化対策を実施

<軌道改修予定区間>

- 大和川～綾ノ町間
約1,800単m（916m×2）
- 御陵前～船尾間
約5,100単m（2,550m×2）



併用軌道



専用軌道

◆阪堺線（堺市内区間）の早期の自立再生について

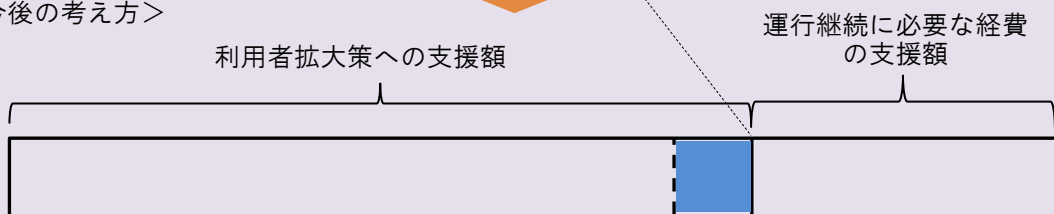
・より高い利用者増加の目標に向けて、阪堺電軌の自助努力を促す観点から、利用者拡大に対する補助を重点配分する。併せて、目標が達成されない場合は、補助の減額も条件とする。

※利用者拡大策および堺市内区間の運行継続に必要な経費への支援として、年間2億円を上限として、支援を実施

<今までの考え方>



<今後の考え方>



目標が達成されない場合は減額

◆支援策の市全体への効果の波及について

○沿線資源との連携

・山口家住宅、伝統産業会館、利晶の杜、南宗寺など沿線の様々な資源や、世界文化遺産登録をめざす百舌鳥・古市古墳群などとの相互連携を強化する。

■これまでの取り組み

- 阪堺線沿線でのおもてなしチケットの特典協力
- 阪堺線に関するイベント実施
- 堺トラム車内でのイベント情報ポスター掲示
- 阪堺線のジオラマ展示

→ 継続・強化

<以上に加えて>

- 世界文化遺産登録をめざす百舌鳥・古市古墳群や利晶の杜との連携を展開
- 百舌鳥古墳群や利晶の杜へのアクセスとして、阪堺線をPR
- 堺トラム車内にて、百舌鳥・古市古墳群や利晶の杜、イベントを告知
- 百舌鳥・古市古墳群や利晶の杜についての阪堺電軌自身による広報活動

○他の交通機関との連携強化

・堺まち旅ループなど他の交通機関との連携を進め、大仙公園から旧市街地に至る観光エリアでの回遊行動を誘発していく。

- 阪堺線と堺まち旅ループなど他の交通機関との連携を強化
- おもてなしチケットの販売強化などにより、回遊行動を加速
- 関連情報などの発信強化により、誘客を促進

<参考> 旧おもてなしチケットと堺都心1日フリーの合計枚数

平成26年度（10月末現在）

旧おもてなしチケット 1,330枚

堺都心1日フリー 2,254枚

合計 3,584枚

平成27年度（10月末現在）

7,544枚

※平成26年度（実績）7,299枚

○多様な主体の参加・協働の機会拡大

・多様な主体が阪堺線との連携に参加・協働ができる機会を増やしていく。



ちん電マルシェの様子

沿線でのイベントだけでなく

- 関連団体との連携
- 外国人対応の実施等
- 大道筋まちづくりとの連携
- 大阪市内のイベントとの連携